瓦谷山

瓦谷山だより

発行日　2019年6月20日
発行人　（宗）真光寺
　　岡本和幸
印　刷　現代社
編　集　（宗）真光寺

問い合わせ先
（宗）真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
http://www.shinko-ji.jp/
○上総自然学校HP
http://www.shinko-ji.jp/satoyama/
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
http://shinkoji.cocolog-nifty.com/ne ws/

vol.41

ごあいさつ

江戸時代のある禅僧の逸話です。禅僧が庭に出てみると、カボチャたちが言い争っていました。「お前がそこにいると俺に日が当たらないからどいてくれ」「そういうあんたこそ邪魔だよ」「お前らうるさいぞ、静かにしろ」「何を、この土手カボチャ！」と、言い合いがだんだんに激しくなるのを見かねた禅僧は、「ともかく一度、静かに座れ！」と一喝します。静かに座って落ち着きを取り戻したカボチャたちに禅僧は言いました。「自分の頭に手をやってみろ」。カボチャたちが手を当てると頭のてっぺんにはヘタがあり、そこからつるが伸びています。言い争っていたカボチャは、みんなつながって生きていたのでした。（『天地いっぱいの人生』内山興正著より）

禅僧に一喝され、カボチャたちは初めて自分たちが大地から等しく栄養をいただき、お互いにつながり補完し合って生きていることに気づいたのですが、カボチャたちを笑うことはできません。私たちも、等しい命であることを忘れ、人と比べて幸せとか不幸とか、何が好きとか嫌いとか、楽しいとかつらいとか、絶えず物事を仕分けしています。そして「あの人は嫌い」と決めたが最後、そこから離れられなくなって「嫌い」を積み重ねた果てに空虚な争いを始めます。

昨年暮れに、哲夫さんという方から電話をいただきました。四谷の東長寺坐禅会からのご縁で、真光寺の旧本堂で行っていた一泊坐禅会にも参加してくださったのですが、しばらくご無沙汰が続いていました。「真光寺に泊めてほしい、そして話を聞いてほしい」というお申し出に、「どうされたのかな」と思いつつ日程を決め、葬儀等によって二度の変更を余儀なくされながらも、二月の末にようやく再会がかないました。

五年前にがんを宣告されてからずっと治療を続けてきたという話を聞き、まだお若いのに、と驚きました。彼はがんであることがわかると気を使われるので人と話すのも嫌になった、そうかといって一人では寂しくていたたまれないし、最近は痛みが出始めて、「こんなつらい思いまでして生きる価値なんてあるのか」という問いかけを繰り返す毎日であることを打ち明けてくれました。私は「事実を変えることはできないから、がんを前提にして考えるのをやめ、行けるうちは行きたいところへ行き、動けなくなっても本を読んだりテレビを見るとか、やれることは全部やって、そしていくべき時が来たらいくより仕方がないのかもしれません」といった話しかできませんでしたが、彼はもう覚悟を固めていたようでした。

「やりたいことをやった楽しい人生だったので、悔いはありません。別れの準備について話がしたくて来ました」といわれるので、それからは葬儀から埋葬や身辺整理などの話をして、翌朝には事務的な手続きをすべて済ませ、坐禅と写経も行じて爽やかに帰っていかれました。

そして「おかげさまですっきりしました」というお礼状を頂戴してひと月も経たぬうち、荼毘に付され、遺骨の姿となった彼を真光寺に迎えることになったのです。書院で行われた里山葬には、彼が生前に声を掛けていた大勢の方が集まり、折しも見ごろを迎えた境内の桜が旅立ちを彩ってくれました。

がんによる痛みという、自分ではどうしようもない出来事を機に、仕分けを繰り返してはまた振り出しに戻るような形でぐるぐる回り始めていた思いを整理して命をしっかりと見つめ、自分らしさを貫いた彼の最期に、自己の観察が正死の覚悟へつながるという仏教の道理を見た思いがします。

薬師堂・坐禅堂の建設工事は緒についたばかりで、まだまだご迷惑をおかけいたしますが、お盆の季節も近づいてまいりました。皆様の御参詣を心よりお待ちしております。

合掌

真光寺住職　岡本和幸

行事報告

◇彼岸会

三月二十一日に縁の会彼岸会法要を、三月二十四日に山門彼岸会法要を厳修致しました。

山門彼岸会では法要後、若手落語家の昔昔亭喜太郎さんによる「宮戸川」という題の落語を絶妙な語り口で披露していただきました。

◇七日法要・植樹祭

四月七日は午前は七日法要を、午後は植樹祭を行いました。植樹祭は年に一度、お寺で用意した苗木を墓苑区画に植えられるとても人気の行事です。今年はウグイスカグラ、ウツギ、コゴメウツギ、テリハノイバラ、ムラサキシキブ、マユミ、シロヤマブキの苗木を用意しました。天候にも恵まれ、皆さん和気藹々と好きな苗木を植えて楽しみました。

◇団参旅行

高野山・比叡山・奈良の旅

四月二十一日～二十三日で団参旅行を行いました。

初日は開創一二〇〇年を迎える高野山を参拝。標高八百メートルの高野山はまだまだ桜が見頃でした。花に見とれつつ、松井秀喜に似た名ガイドと共に歩けば広い境内もあっという間で奥之院に到着。弘法大師御廟前にて一同般若心経をお唱えし、夜は高野山宿坊《桜池院》にて一泊。とても美味しく上品な精進料理のおもてなしを受けました。

二日目は早朝より朝のお勤めに参列。真言密教の心洗われる清らかな声明（しょうみょう）を拝聴し、一同奈良へ出発。修学旅行の定番、奈良の大仏では、「何十年ぶりだろー」という声を多々聞きながら東大寺と興福寺を拝観。人慣れした鹿たちも温かく迎えてくれました。二日目の宿は琵琶湖を一望できる雄琴温泉に宿泊。恒例の夜の懇親会では住職を囲んで四方山話で盛り上がりました。

三日目は比叡山延暦寺を参拝、国宝の根本中堂は平成二十八年からの大改修で仮囲いに覆われていましたが、屋根の高さまで上がれる修学ステージが設けられており、普段は見られない細部を見ることができました。

今回団参旅行にご参加頂きました皆さま、大変お疲れ様でした。次回の行き先は未定でございますが、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

高野山奥之院前での集合写真

ご寄進者ご芳名

金弐萬円　阿部尚子　様

ご寄進いただき心より御礼申し上げます。皆様からのご寄進は諸堂建立に充てさせて頂き、食堂の寄進芳名単にお名前を記し、永く寺録に残させていただきます。

令和元年　年回表

一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
三十七回忌	昭和五十八年
五十回忌	昭和四十五年
百回忌	大正九年

真光寺境内植物図鑑

真光寺境内、樹木葬墓苑にある木々。「この木なんの木？」とご質問の多い樹木を取り上げてみました。

花を咲かせる木々は比較的みなさんご存知なのですが、いわゆる雑木についてのご質問が多くなっています。

コブシ／辛夷（落葉）

「この木なんの木？」とご質問の多い樹木といえば意外にもこのコブシです。

理由は実（み）にあります。花は多くの方がご存知なのですが、実（み）はご存知ない方が大半でその不思議な姿に驚かれます。この凸凹とした形状が拳に似ているといことからコブシと呼ばれるようになったという説があります。春先、遠くからでも山にコブシが咲いている様子が確認でき、いよいよ春かと嬉しくさせてくれる里山の花木です。樹木葬墓苑の随所にあります。

クヌギとコナラ／櫟と小楢（落葉）

両方ともに日本の里山を代表する木の一種です。薪や炭として、永らく日本の燃料といえばこの木々たちでした。成長が早く、十年ほどで利用可能になります。また、再生力も強いので切株から容易に萌芽します。里山林の風景とはこの切株から伸びた軽やかな枝ぶりと新緑の萌木色を連想される方も多いと思います。この燃料用の森のことを薪炭林（しんたんりん）と呼びます。

シイタケのホダギにも利用されます。その他樹液がカブトムシやクワガタムシに好まれます。子ども時代に親しんだ方も多いのではないでしょうか。里山の原風景の中心的樹木なので、是非覚えてください。樹木葬墓苑の随所にあります。

クヌギとコナラは樹姿、樹皮ともによく似ています。冬はなかなか見分けがつきません。葉っぱの細い方がクヌギです。

エノキ／榎（落葉）

大木に成長し、樹形も美しいので景観の中心的存在となっていることも多い木です。実が甘く、新芽は柔らかく食用も可能です。材も堅牢でクワの柄に活用されたことから柄の木とか。ご存知エノキダケの菌床となります。真光寺境内には巨大なエノキが散在していて、樹木葬墓苑の東側を縁取る雑木林の中に目立ち、墓苑の印象を形づくる重要な木々となっています。エノキは「縁の木」としても親しまれ、真光寺縁の会のシンボルツリーと呼べる樹木です。

アオダモ／青梻（落葉）

「これがバットの、あのアオダモですか。」野球に親しんだ方であればアオダモといえばバット。木の姿形は知らなくとも、バットの木といえば通じるのがアオダモです。華奢な枝葉とふわふわとした花が可愛い、バット以外でも親しんで欲しい木です。樹木葬墓苑の中央東側にありますので探してみてください。

シラカシ／白樫（常緑）

照葉樹（ツバキなどの葉がテカテカしている木の仲間）の一種です。寺社仏閣、屋敷林や生垣にも利用されていて、街でもよく見る樹種です。真光寺では樹木葬墓苑の中心にあり、皆さんの道しるべになっています。

市原悦子さん

真光寺住職

既報のように女優の市原悦子さんが、当山樹木葬墓苑に眠られました。新聞やＳＮＳ、雑誌で当山が紹介されたため、多くの方がお墓参りに来訪されています。さて、市原さんは何箇所もの樹木葬を見学されて、最後に当山にたどり着いたと言われました。お話しをしていると、時折見せる、輝くような笑顔が印象的でした。ある時私に対して「お友達になりたいような方ね～」と言われた事がありました。残念ながら縁薄く、何度かお話しする程度でした。お寺やお坊さんとは生きている時に交流したり、利用したり、お話しするのが良いと思います。亡くなった後ではつまらない。樹木葬は生きている時にお寺の雰囲気を楽しんだり、木の成長や景色の変化を楽しむ墓地だと思っています。

市原悦子さんの区画にあるのは榎の若木で、未来の大木を市原さんが好まれ、その場所にされました。

ウンナンチユウキンレン／雲南地湧金蓮

この花、大変珍しいものだそうで、一九九九年に中国で開催された昆明世界園芸博で目玉となったこともあるそうです。

そんなものがなぜかこの真光寺に。バナナの仲間だそうです。

墓参・送迎のご案内

●墓参供花（植花）について

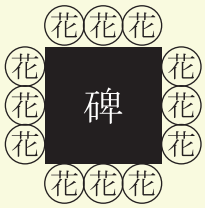
※種類は一年草に限ります。

※植えつけることのできる範囲は碑の周囲だけでお願いします。

※人工物の設置はご遠慮ください。

※土が見えるほど芝や雑草を抜くと土が流れますので、刈り取りにて清掃してください。

良い例



※供花はご遺族のお気持ちに沿ってなるべく残すように管理しております。むやみに処分できないものですので、何卒ルールの順守をお願い申し上げます。

●墓参、法要の送迎場所

・電車：ＪＲ袖ヶ浦駅改札前

・高速バス：袖ケ浦バスターミナルのロータリー

・東京ドイツ村：バス停前

※ＪＲをご利用の場合、待ち合わせを「ＪＲ袖ヶ浦駅」に一本化することになりました。お帰りはこれまで通りご都合に合わせて姉ヶ崎駅にもお送りいたします。

※送迎時間は法事を除いて原則として寺報裏表紙に記載した時刻でお願いいたします。

※法事の送迎は施主様が取りまとめてください。

※前日までにお電話でお申し込みください。

※ご利用された方はお布施をお願いします。

※葬儀の際は取りまとめが困難ですのでタクシーのご利用をお願いします。

●バス見学会の墓参利用

・バス見学会での空席を墓参で利用していただくことができます。

※バス見学会を墓参でご利用された場合には参加費の他にお布施をお願いします。

住職インタビュー

袖ケ浦市郷土博物館　井口　崇　館長

『古事記』や『日本書紀』のヤマトタケル伝説がその名の起源とされる袖ケ浦ですが、歴史や風土について知る機会はなかなかありません。真光寺のある川原井周辺は、早くから仏教と縁のある土地だったようです。そこで袖ケ浦市郷土博物館館長の井口崇先生に、住職が思いつくままおうかがいしました。

住職　真光寺では現伽藍の建築に先立ち遺跡調査を行った結果、縄文時代の人が狩りに使った落とし穴や、奈良・平安時代の竪穴住居の遺構などが出てきました。その調査の際はもちろんのこと、井口先生には日頃から大変お世話になっておりますが、先生はずっと袖ケ浦市の遺跡調査を手がけてこられたのですか。

井口　私は和歌山県から東京の大学に入って考古学をやったのですが、先輩たちが袖ケ浦をフィールドとして活動していたので一年生から実習に通いまして、測量とか発掘のやり方を教えてもらいました。就職するつもりはなかったのですが、たまたま袖ケ浦で博物館を作る話が持ち上がり、博物館の場所自体が遺跡だけど、掘る人間もいなければ博物館を立ち上げるスタッフもいない、じゃあお前が行け、というような乱暴な話から勤め始めて今に至っています。ずっと博物館勤務でしたので、自分で発掘をしたことはそれほどなくて、多くは後輩たちがやってくれました。ですから土を掘ってわかったことはほんのわずかで、袖ケ浦について私が知っているほとんどは、地域のお年寄りに教わったことから構成されていると思っています。

住職　古いことを知っている人がまだ多かったのですか。

井口　最初の頃は「あんたたちみたいな専門家に教えることなんか何もないよ」と言われましたが、それでも何度も行っていると、「お茶飲んでけ、たくあん食ってけ、酒飲んでけ」って、そんな感じで少しずつ中に入れてくれて、もちろん歴史に沿って整然と話すわけではなく、お一人お一人がぽつりぽつりと話してくれる地名の話とか伝承とかを縫い合わせていくような感じでしたが、そのうちにいわゆる郷土史家というのでしょうか、使命感をもってそういうものを伝えられている方たちにも出会うことができ、いろいろなことを教えてもらいました。そうやって一つひとつ積み重ねていくのが博物館の仕事と思っています。

住職　そういった蓄積は、どんな形でアウトプットされているのでしょうか。

井口　展示に反映させたり、博物館の講座で話したりしてきました。それと、袖ケ浦市史には書いていますが、読んでもあまりおもしろくないですよね（笑）。今は一か月に一度かずさＦＭで、きっちりとした話ではなくラフな形で喋らせてもらっていますが、それを形にしておいた方がいいかなと思っています。

住職　放送では言えないようなこともあるでしょう。

井口　そうですね、公務員としてはちょっと、ということもありますけれども（笑）。

住職　そういうおもしろいところを「瓦谷山だより」にぜひ書き綴っていただきたくて、今日はまずインタビューの形でお話をうかがおうと思った次第です。

◇謎に包まれた古代の寺院◇

住職　最近、郷土博物館にほど近い山野貝塚が国の史跡に指定されましたが、あれは縄文時代の遺跡ですか。

井口　縄文時代です。山野貝塚の周辺には沢山の遺跡があって、おおかたの時代が含まれています。やはり水があって比較的安全な場所を選んで住むので、そういうところでは旧石器から平安時代ぐらいまでの遺跡が出てくることもあります。

住職　袖ケ浦には、いつごろから人が住んでいたのでしょうか。

井口　ピンとこないかもしれませんが、三万年近く前の土の中から石器などが出てくるので、その頃にはもう旧石器人がいたようです。

住職　縄文時代の房総半島は中央部がかなりくびれていて、袖ケ浦の海岸線もずいぶん違いますね。

井口　今の袖ケ浦周辺の地図を見ると、北に台地があり、その南側に小櫃川（おびつがわ）が流れる平地が帯状に馬来田（まくた）あたりまで深く入り込んでいるのがわかります。

住職　たしかに袖ケ浦バスターミナルから山の方へ向かうと、両脇に田んぼが広がる平坦な道がしばらく続きますね。

井口　縄文時代になる頃には地球が温暖化しはじめた時期ですから、ピーク時には小櫃川の下流の平地は海だった可能性があります。縄文時代後期の山野貝塚の頃にはアシなどが生い茂り、海水と真水が入り混じったラグーンのような光景が広がっていたのではないでしょうか。

住職　そういう水辺で暮らした縄文時代の人々の生活の跡が山野貝塚と考えられるわけですね。

　真光寺の敷地から出た遺跡以外にこの周辺には遺跡が多く、仏教文化の伝播や土器作りを物語るものも出ているとうかがいました。上総国の国府だったお隣の市原には国分寺と国分尼寺が建立されましたが、この地に仏教はどんな形で伝わったのでしょうか。

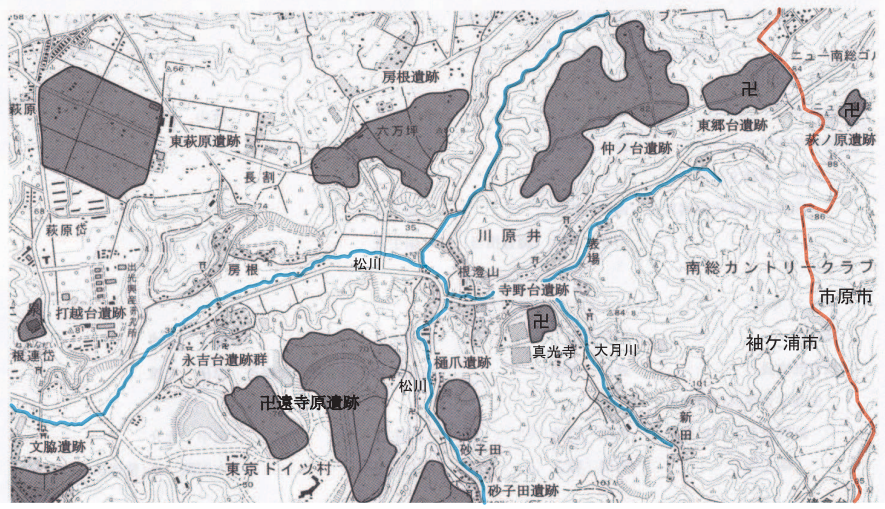
井口　国分寺が造られてからしばらく経った八世紀の終わり頃には、もうこの周辺にいくつかの仏教施設が存在したことがわかっています。現在の真光寺が建つ場所の小字地名は「寺地」ですし、寺野台という地名をとって遺跡の名称にしています。平安時代初期には、この地にも古代の仏教施設があったのではないでしょうか。真光寺の西側にあたる東京ドイツ村の中にあっ

た遠寺原遺跡からは「西寺」「僧」という墨書土器が出ていますし、東側のニュー南総ゴルフクラブの中にも萩ノ原遺跡（市原市上高根）やわれわれが川原井廃寺と呼んでいる東郷台遺跡（袖ケ浦市川原井）という仏教施設の遺跡があって、小さな基壇を設け、瓦塔（がとう）という組み立て式の焼き物の塔を安置していたようです。

ですからこの一帯では、千二百年以上前の奈良時代の段階から、厳密にはお寺といえるような規模ではないかもしれませんが、すでにお堂というか道場のような施設が活動を始めていたんです。でもせいぜい数百メートルから二キロぐらいの圏内になぜ小規模な仏教施設が相次いで建てられたのかはわかっていませんし、いずれも百年ぐらい続いただけで、その後宗教的なものがどうなったのかも不明です。ただお寺のすぐ近くで土器を作り始めているので、われわれは、檀越というか有力な人たちが土器生産を導入していったのかと考えたりもしています。真光寺の山号が「瓦谷山」であることを思えば、あるいは瓦を焼いていたのかもしれません。実際に国分寺とか一部の中央のお寺のような本瓦葺きではありませんが、このあたりからも瓦が出ていますから、恐らく作っていたのでしょう。

住職　樹木葬墓地の一番奥がちょうど山の頂上で、そこを掘ったら真っ白な粘土が沢山出てきました。でもほかの場所は全部赤土です。

井口　粘土が出なければ土器は作れませんから、それは大発見かもしれません（笑）。



寺野台遺跡周辺の遺跡分布図（千葉県袖ケ浦市　寺野台遺跡（２）・（３）の第１図を一部改変して使用）

◇道がつなぐもの　古代から現代◇

住職　土器製造の技術はどこから来たのでしょうか。

井口　奈良時代以前には、海寄りの地域には大きなムラがもういくつもあって、そこから新たな土地を求めてどんどん東へ、つまり山の方へと人が入って開いていくのですが、反対側の国分寺の方からも入ってきて、そういう二つの流れがドッキングしたのが川原井のあたりだったかもしれません。川原井から大月川と松川を下って西へ行けば、小櫃川を経て東京湾へ出られるし、東も山一つ越えればもう養老川です。だからどちらの側からも近いわけで、時代は前後しますが、日本書紀や古事記で知られるヤマトタケルとオトタチバナヒメの伝承が残る茂原の本納へは、陸路ではこうしたルートを使わないと行けないはずなので、木更津や袖ケ浦から上総の国府を経由して北東に通じる古代の道があったのでしょう。

住職　一見すると奥まった場所のようでも実は東西の上総をつなぐ位置にあり、また海ともつながっているのでいろいろなものが入ってきたわけですね。真光寺が米作りをしている大月川最上流部には、幼体期は海、成体になると川に棲むといわれるモクズガニがいて、そんなことからも海とのつながりを感じます。

井口　それと技術ということでは、古代の袖ケ浦は望陀（もうだ）郡と呼ばれていて、その名前を冠した望陀布という高度な技術で織られた布が上総の特産品として中央に運ばれ、恐らく東大寺大仏の開眼会で使われています。それから唐の皇帝にも献上されたというのですが、残念ながら今は残っていませんので、からむしの糸づくりから研究して、わずかですが復元に挑戦したりしています。

住職　大仏開眼はもちろん、唐の皇帝にまでつながるなんてワクワクしますね。

井口　それでこのあたりは十世紀の平安時代ぐらいまでの動きはわかるのですが、平安時代の終わり頃から鎌倉時代にかけてはほぼ空白といっていい状態で、戦国時代になると城ができるので再び見えてくるわけです。ただ文献を見る限り、川原井周辺は鎌倉時代には熊野三山の領地になっていたらしいのですが、これもどういう経緯でそうなったかはわかっていません。

住職　たしかに川原井には、熊野が由来といわれる鈴木姓の家が結構あります。

井口　私も熊野出身なので、鈴木さんの集まっているところに行くと、もう嬉しくなっちゃって（笑）。

住職　先ほどのお話とも関連しますが、江戸時代以前の坊さんには荘園の管理人という側面もあって、最初は宗教者として入ってお寺を構えて荘園を開墾し、軌道に乗ったら世俗的な生活を送ることも許されていたと思います。特に修験系はそういう色彩が強いですよね。これは素人のこじつけですが、宗教的な要素が消えたのも熊野の領地になったのも、修験が何らかの形で絡んでいたからではないかという気がします。真光寺のお隣の光明寺は真言宗で、千二百年続いていると

いう言い伝えがありますから、ここも修験と関係していた可能性はあると思うんです。

井口　それで熊野が入りやすかったのかもしれませんね、なるほど。

住職　当時は国家仏教とはまったく別に私度僧もいっぱいいて、結構自由にやっていたでしょうから。

井口　当時の中央政府はおおらかで、私度僧を罰していないですよね、何をやってもいいよ、みたいな。

住職　行基等を利用して財物や労力を集め、国家プロジェクトをやったりしていましたからね。私度僧の多くは正式に戒を受けていないので、いい人ができたら結婚してそこに根を下ろしたのかもしれません（笑）。

井口　そう考えたらわかりやすいかもしれませんね。

住職　熊野からは、やはり船に乗って海を渡って来たのでしょうか。それにしてもかなりの距離ですよね。

井口　熊野の信仰・勢力は全国に広がっていきます。関東にもどんどん布教をしたらしくて、千葉県は福島県に次いで全国二位の熊野神社分布数を誇っています。それはなぜかというと、太平洋側の海道諸国には航路がすでにあったからだと思います。熊野は山と川と海だけで平地がないので、物資を手に入れるのも大変だったと思うんです。だから米などは勿論のこと各地の産物も海路で新宮津（熊野川の河口）に運ばれたのでしょう。

住職　近世は大都市江戸に薪炭や米を供給していたそうですが、もっと前から生産拠点だったのですね。

井口　ええ、江戸にとってもこのあたりは一大燃料基地でしたから、大量の薪や炭を送っていたわけで、植林はしていたかもしれませんが、当時は丸坊主の山ばかりだったようです。それから海岸で海苔を育てるのに使う海苔ひびも出していましたから、山はよく手入れされていたと思います。

住職　海苔ひびにする竹を持って行って藻と交換し、それを畑にまいて肥料にしたそうで、その縁で結婚したという話も土地のお年寄りがよくしていました。

井口　かつては海苔の関係で、東京の羽田や大森あたりは通婚圏になっていましたからね。

住職　そのあとは、ゴルフ場開発で出会って結婚といった話が多くなりましたけれども（笑）。

◇袖ケ浦に残る鎌倉街道伝説◇

住職　もう一つよく耳にするのが鎌倉街道の話です。

井口　実は鎌倉街道というのは江戸時代からの呼び方で、もとをただせば往来や物流のために、また「いざ鎌倉」というときに馳せ参じるために、土豪の衆は自分の領地内に古くからある道を荒れないように維持していて、それを後の世に「鎌倉みち」と呼ぶようになったのではないかと思います。

住職　そこに頼朝の逸話が加わったのでしょうか。

井口　『吾妻鏡』を見ると、頼朝がこのあたりを通ったということは書かれていないのですが、伝説はたくさん残っていて、たとえば真光寺の近くに「まんざか」というところがありますね。それは鎌倉街道と伝承されている道に向かって上っていく坂ですが、あそこは実は万騎坂なのだと言う人もいます。石橋山で負けた頼朝は、一度安房に逃れてから上総を通って鎌倉を目指しますよね。

住職　「その時頼朝を助けたのが切替（きりかえ）さんという家だ」といった話を聞きました。

井口　その過程で上総氏とか千葉氏とかの武士団を巻き込んで百騎千騎と軍勢を増し、ここに来たら万騎になっていたから万騎坂なのだ、というわけで、「百」とか「千」のつく坂も別にあるんです。ただ「まんざか」は地名で「馬坂」とされてあるので、「うまのさか」が縮まって「まんざか」になったと思います。

　そこの道は江戸時代に久留里藩の殿様が参勤交代で江戸へ通った道でもあるわけで、川原井は今も袖ケ浦市と市原市の市境に位置しますが、昔から望陀郡と畔蒜（あびる）郡と海上（うなかみ）郡という三つの郡が境を接する場所でしたから、そこへつながる重要な道として長く使われてきたのでしょう。

　袖ケ浦には鎌倉街道に関連した地名がたくさん残っていて、それぞれに伝承が残っていたり、八幡神社があったりします。頼朝が通ったかは別としても、本隊のほかにいろいろな隊があちこちの道を通ったはずで、それが伝承として残ったのかもしれません。川原井も、「のうえんカフェ」のすぐ近くに「鎌倉通」という小字（こあざ）がありますね。

住職　もう亡くなった地元のおじいさんが、「ここは昔の鎌倉街道で土塁もあった、でも壊しちゃってもうないよ」という話をしていました（笑）。

井口　壊したら元へは戻りませんが、そういう証言は大事で、ちょっとでも話を拾って後の人に残していかないと、いずれ手がかりがなくなってしまいます。

住職　おっしゃる通りですね。大月川や松川やあるいは小櫃川に育まれてこの土地の文化が形成されたわけで、自然環境と共生していくところからもう一度始めようというのが上総自然学校の試みです。失われたものも再生してみたいのですが、そのためにはまず人を育てなければなりません。文化や習俗の伝承と共に、そういうことも寺院の役割かなと考えています。

井口　博物館も同じで、資料も建物も財産ですが、やはり人が勝負なので、そこはしっかりやっていきたいと思っています。ただ、われわれのように仕事としてやっている人間はやがてはいなくなるので、ここで生きている人たちが主体的に残していくことが、何より大切なのではないでしょうか。その旗振り役として、お寺さんにはぜひ頑張っていただきたいですし、いろんな場面で博物館ともつながっていただければと思います。

住職　肝に銘じます。貴重なお話をありがとうございました。

上総自然学校（里山再生活動）

兄妹で力を合わせて大きなたけのこ掘ってます！　傷つけないようにそっと掘らなきゃ…

立夏　竹筍生（たけのこ　しょうず）

人々は昔から竹と共に暮らしてきました。近年、生活様式の変化や工業製品、輸入品の普及により里山の竹は使われる機会が失われてきています。手間も労力もかかりますが、丁寧に手入れされた竹林は本当に気持ちが良いの一言に尽きます。「里山の自然」というものは人の手が入ることによって保たれているのだということを強く感じます。

イベントだより

― 畔塗りと稲苗づくり ―

たっぷりまいていっぱい出来ますように！

土を盛ってペタペタして、気分は左官屋さん。

普段食べているお米の種なんて見たことない子が多く「これが本当にお米になるの～？」という素直な疑問がなかなか解消されなかったようですが、種蒔き作業は楽しかったようです。

― 田植え ―

苗がこんなにおおきくなったぁ～

今年も美味しいお米が出来ますように。

自分で育てた苗を田んぼに植えるのは嬉しくもあり寂しくもありと、何となく我が子を送り出すような気持ちですねと言っていた方がいらっしゃいました。大自然の中でもたくましく大きく育って欲しいですね。

イベントのご案内

皆様のご参加をお待ちしております！

- 6月30日（日）　イトトンボの観察会
- 8月3日～4日（土～日）　里山の昆虫観察会（泊り）
- 9月14日（土）　稲刈り体験 ①
- 9月15日（日）　稲刈り体験 ②
- 9月29日（日）　トンボの観察会
- 10月12日（土）　収穫祭 ①
- 10月13日（日）　収穫祭 ②
- 10月20日（日）　キノコの観察会と秋の収穫体験
- 11月30日（土）　里山で年忘れ（宿泊も可）

※各イベントの詳細は上総自然学校のHPをご覧ください。

行　事　予　定

縁の会施食法要のご案内

縁の会お盆のご供養を行います。七月盆、八月盆に分け、三座の施食法要を修行いたします。厳しい暑さの時期ではございますが近在の寺院僧侶をお迎えし、先祖代々のご供養、故人のご供養、新盆精霊のご供養、両親縁者など、皆様のご供養を行います。また、今年新盆にあたる精霊には特別にご回向をいたしますので新盆家ご縁者の方はご参加下さいますようご案内申し上げます。

◇７月７日（日）◇
１１時００分　授戒式
　　月例供養
１３時００分　施食法要

◇８月１１日（日）◇
午前の部
１０時３０分　受付
１１時００分　法要

◇８月１１日（日）◇
午後の部
１３時００分　受付
１３時３０分　法要

●申込み事項
①出席者のお名前、人数、お弁当の数（おひとり1,000円）
②出席の日時
③お迎えの有無(午前、午後)
　お迎えの時間は裏表紙『送迎案内』をご参照ください。
④花塔婆供養の有無（1本　2,000円）
　花塔婆のお申込みは事前に同封のFAX申込用紙または電話にてお申込み下さい。
　お申込みの際は、故人の戒名または俗名、または〇〇家先祖代々、塔婆を建てる方の施主名をお知らせください。
●供養布施について
⑤施食回向布施　　随意(3,000円～10,000円程度)
⑥新盆施食回向布施　随意(30,000円～50,000円程度)

《棚経のご案内》
ご自宅の仏壇前にて新盆供養または、先祖供養をご希望の方は僧侶がご自宅へ伺いしてお盆のご供養をいたします。7月盆、8月盆ともに対応いたしますので、ご希望の日時をご相談下さい。

読経時間含め、お邪魔する時間は新盆家30分程、他先祖供養は15分程です。

仏像彫刻教室　《どなたでも参加できます》

日時：毎月第１・第３水曜日
　　13 時 30 分～ 16 時 30 分
費用：3,500 円 / 1 回参加
場所：真光寺（参加者が 3 名以上で開催）
　仏師の先生にご指導頂き仏像を彫っていきます。初めての方でも大丈夫です。それぞれの方に応じたペースで、取り組みます。　※要予約

坐禅会　《どなたでも参加できます》

日時：毎月第 2・第 4 土曜日
　　15 時～ 16 時 30 分
　初心者の方もやさしくご指導いたしますので気軽にご参加ください。脚がくめない方は椅子を使って参加して頂けます。休憩をはさんで 2 回坐禅をくみます。終了後は、僧侶と一緒に茶話会もございます。
※初めて坐禅をされる方は、簡単な説明を致しますので 14 時 30 分までにお越し下さい。

精進料理と聖典講読の会　《どなたでも参加できます》

日時：7 月 23 日（火）　9 月 30 日（月）
　　10 月 29 日（火）　11 月 26 日（火）
午前 11 時～午後 2 時 30 分
費用：3,000 円　昼食付（精進料理）
場所：真光寺
　住職による『正法眼蔵随聞記』の解説の後、一緒に食事をして、午後は坐禅または写経を行います。昼食は、真光寺手作り精進料理や手打ちそばをお楽しみいただきます。

行　事　予　定

【真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。】

山門大施食 《檀信徒》

日時：8 月 9 日（金）14 時より
恒例の盆施食法要を行います。14 時より法話、15 時より法要を行います。

秋彼岸法要 《檀信徒》

日時：9 月 23 日（月祝）14 時より
秋のお彼岸供養を行います。法要後には余興を予定しております。

あじさいの会 《どなたでも参加できます》

日時：7 月 18 日（木）　10 月 25 日（金）
　　9 月 27 日（金）　11 月 21 日（木）
　　午前 11 時より午後 2 時半頃
費用：1,000 円　昼食付
境内や樹木葬墓地の植栽管理作業にご協力をいただく会です。花咲く寺を目指しております。是非ご参加、ご協力お願いいたします。
※要予約

戒名を考える会 《縁の会会員　特に未授戒の方》

日時：9 月 17 日（火）午前 11 時より午後 2 時半頃
　　12 月 10 日（火）　　〃
費用：3,000 円（昼食付）
定員：20 名
　戒名を考えることは、人生を振り返ることです。午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際にご自身の戒名を考えます。考えた戒名は後日の授戒式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、観音堂にご安置します。
※要予約
※持ち物：漢和辞典

ご詠歌練習日 《どなたでも参加できます》

7 月	9 日・23 日	10 月	8 日・29 日
8 月	6 日	11 月	12 日・26 日
9 月	10 日・24 日	12 月	10 日（忘年会）

時間　5 月～ 9 月は 19 時半・10 月～ 4 月は 19 時より
※ご詠歌は、お釈迦さまの教えを讃え、ご先祖さまをうやまう心をやさしい旋律にのせお唱えするものです。

真光寺囲碁の会 初心者入門基礎講座 《どなたでも参加できます》

日時：11 月 28 日（木）～29 日（金）
　　14 時から翌日 13 時 30 分解散
費用：8,000 円　1 泊 3 食
場所：真光寺
　初心者の方も大歓迎！日本棋院六段の先生に基礎から教わり、囲碁をはじめてみませんか？日帰りのご参加も可能ですのでお問い合わせください。
※要予約

縁の会秋彼岸法要

日時：9 月 23 日（月祝）　11 時より
縁の会合同での秋彼岸法要を行います。
昼食（お弁当）のご用意を致しますので、参列申込みの際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。
欠席の場合でもお塔婆のみのご供養もお受け致しますのでお申し付け下さい。
※要予約

七日法要 《縁の会会員》

日時：7 月 7 日（日）　11 時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は 7 月盆施食
　　8 月 11 日（日）　11 時より盆供養一座目・月例供養、昼食（お弁当）、13 時半より盆供養二座目
　　※詳細 10 ページ参照
　　9 月 7 日（土）　11 時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
　　10 月 7 日（月）　11 時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
　　11 月 3 日（日）　11 時より縁の会総会・月例供養　※詳細は 9 月下旬頃お手紙でご案内致します。
　　12 月 7 日（土）　11 時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は大掃除
※要予約　午前、午後のみの出席もできます。

表紙写真のこと

↑10 年前、vol.12 の表紙です。10 年間で裏の竹藪が夕照庵になり、池に鯉が来て、庭の木が成長しました。次の 10 年はどうでしょうか？

里山のお米
完売いたしました！

毎年、上総自然学校で作っている里山米。ありがたいことに昨年度分が完売となりました。日本の原風景である里山とその自然を再生し守り続けたいという想いとともに始まった自然学校。縁あった多くの方々に助けられ、今では３ｔ近く収穫出来るまでなりました。食べてくださる方々に自然のもの、健康に良いものをという思いから一貫して無農薬（種子消毒以外）でお米を栽培してきました。手間を惜しまず、先人達の育んできた文化を継承し次代に引き継ぐことで多くのものを守り続けていくことが出来るのではないかと考えながら今年も美味しい米作りに励んでおります。

新米のご予約を受け付けております。
詳しくは別紙の注文書をご覧ください。

販売価格（白米）
- ２ｋｇ　／　¥１，１００
- ５ｋｇ　／　¥２，５００
- １０ｋｇ　／　¥５，０００

送迎のご案内【午前】

□電車の方
- 上り電車の方（君津発逗子行き）
  JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- 下り電車の方（快速君津行き）
  JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】
- 品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- 横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- 川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- 新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- 東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

【平　日】
- 品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- 横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- 川崎発9時00分→袖ヶ浦BT10時02分着
- 新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- 東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方
- 上り電車の方（木更津発普通千葉行き）
  JR内房線「袖ヶ浦駅」12時51分着
- 下り電車の方（千葉発普通君津行き）
  JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着
  （千葉12時18分発）

□バスの方

【土日祝】
- 品川発11時35分→袖ヶ浦BT12時27分着
- 横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- 川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- 新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- 東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

【平　日】
- 品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- 横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- 川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- 新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- 東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

各種お申込み連絡先

真光寺　〒299-0201　千葉県袖ヶ浦市川原井634
TEL　0438-75-7414（代表）　TEL　0438-75-7365（縁の会事務局）　FAX　0438-75-7630
e-mail　ennokai@shinko-ji.jp（縁の会）　satoyama@shinko-ji.jp（上総自然学校）